

## 「日本語を楽しもう1」を使って 6課「思い出」

(2004年1月5日実施)

1月5日、初級・クラスの「日本語を楽しもう」を使っての公開授業を行なった。このクラスの学習者は10月はじめに日本へ来たばかり。国で多少日本語を勉強してきたというものの、聞く、話す力は正真正銘の初級と言ってよい人たち12名である。そのうち10名は中国、2名はベトナムの出身。36歳の会社員から、国で中学を卒業して家族ビザで日本へ来た17歳の少女まで、年齢層はかなり広い。

10月4日にこのクラスがスタートしてからちょうど1ヶ月。来日が遅れた人たちもいたので大半は1ヶ月足らずの日本語の学習でようやく日本語の音に少し慣れてきた、という状態の彼らにとって、この日は朝からずいぶん緊張を強いられるものだったようだ。見学者の皆さんが来られるまでの約45分、発音練習をしたり、前日の復習をしたりして、きょうもいつもと同じようにやればよい、という気持ちになってもらう。テキストは6課。ここで中心となる学習項目である、動詞の過去形(～ました)、形容詞の過去形は、すでに昨日までに紹介されているのでその形を確認。きょうはその過去の形をつかって自分の高校時代のことを話すのが授業の中心となる。

見学の皆さんが着席され、6課-4の勉強が始まる。「きょうは皆さんの高校時代のことを話します」と切り出したが、「高校」という言葉自体、初めての人もいるかもしれないので、板書。国で中学を終えただけの人もいるので「中学」という言葉も紹介。ついでにその下の「小学校」も紹介しておく。

今日のメインとなる質問の文にいきなり入る前に、「いつ高校を卒業しましたか。」という質問を皆でききあってみる。これでクラスの学習者一人一人のだいたいの年齢もわかり、お互いのことに興味がわいてきたようだ。わかりやすく、楽に答えられる質問を繰り返すことで学習者の側の緊張もほぐれ、少しずつエンジンがかかってきた。

「高校時代はどんなことをしましたか。」これはそれぞれ自分自身のことについて答えるので、クラスの中でも比較的色々なことばを知っている数名の人たちから答えてもらう。質問の文は全員でその都度コーラスするわけだから、学習者たちは10回以上、この同じ質問を口にするようになる。数名の答えの中から教科についての語彙やスポーツについての語彙を拾い、知らなかった人たちにも紹介する。こうしていることで、知っている語彙の少ない学習者も自分の答えを用意できていくことになる。「英語」「数学」「化学」などの教科名は、中国人の学習者にとっては漢字を見れば一目瞭然であるが、ベトナムの二人はそういうわけにはいかない。辞書をひいている様子なので少し待ってみる。「わかった。」「大丈夫。」との反応を得て、次へ。勉強については、「きびしかったです。」「大変でした。」という声が多く、「一日に何時間くらい勉強しましたか。」「何時から何時まで～？」という質問にごく自然に発展していく。一日に12時間も学校で勉強した、と言う話に教師のほ

うが驚く。驚いている教師を見て、学習者の側も、「私も。」「中国では皆、勉強します。」との反応。言葉の学習の中でお互いの気持ちが交わる時でもある。

今回の授業では、それぞれの高校時代のことをきき、話す活動を通じて、約1ヶ月一緒に勉強してきたクラスメートの意外な一面を知る機会が得られたと思う。もの静かな大人である36歳の社会人、Rさんが高校時代はサッカー少年であったこと。最年少のZさんが政治に興味を持っている、と言う話などなど。学習者の側も単なる文型、ことばの学習を超えた、知る驚き、知る楽しみを感じてくれただろうか。少なくとも教師はとても面白かった。このような教室活動を通して、日本語を学ぶことが単なる勉強に終らず、クラスの中の人間関係の構築にも役立って学習者たちを結びつけるものとなっていくことも教師の目指しているところである。

ひとわり学習、スポーツ、旅行と話をひろげ、自分のことを語る語彙も紹介したところで、仕上げは見学者の皆さんとのペアワーク。これは日本へ来て1ヵ月、まだまだ日本語は話せません...と思っている彼らにとって、はじめて長時間(!)日本人と日本語で話を交わすことができた、貴重な経験であった。後でクラスの皆は、「いろいろな話をしました。とても楽しかったです。」と感想を述べてくれた。

ともすれば単調な学習の中で話せない、聞いてもわからない、というストレスの固まりになりがちな初級学習者にとって、習った日本語がすぐに使えるコミュニケーションの場を体験できたことは、今後の日本語学習への大きな動機づけとなったと思う。気長に、楽しくペアワークのお相手をして頂き、見学者の皆様、本当にありがとうございました。

(渡部尚子)